

2016年2月24日

近畿日本鉄道株式会社
取締役社長 和田林 道宜 様

日本共産党奈良県委員会
委員長 細野 歩
日本共産党大阪府委員会
委員長 山口 勝利
日本共産党京都府委員会
委員長 渡辺 和俊

日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所

近鉄各線と駅の利便・安全性をもとめる要望書

住民生活に欠かせない公共交通機関として、日々ご尽力いただいていることに心から敬意を表します。無人駅が増大するなかで住民のみなさんから、日本共産党に対して、安全性や利便性について、様々な不安、要望が寄せられています。

以下要望しますので住民の声を真摯に受け止め、前向きに検討していただきますようお願いいたします。

要望趣旨

近年、全国的に高齢化、人口減少などを理由にして、無人化駅が増大しています。国土交通省の調べでは、2012年度末で全国鉄道駅 9482 駅のうち、4335 駅、50%弱が一日中の無人駅となっています。貴社は 2013 年に大幅に無人駅を増加させ、それ以降も一部時間帯での無人も含めて駅員が配置されない駅を急増させています。奈良県では、2008 年度 4 駅であった無人駅が 27 駅、全体の 3 割近くまで拡大しています。

住民にとって日常生活に必要不可欠な交通手段の確保は、国の責任と共に、公共交通をになう事業者の社会的な責任でもあります。国は、「地域公共交通の維持、改善は交通分野の課題解決にとどまらず、町づくり、観光、さらには、健康、福祉、教育、環境などの様々な分野で大きな効果をもたらす」（国土交通省地域公共交通活性化再生法の一部改正パンフより）として、国、地方自治体と鉄道事業者が一体となって、安全性と利便性を強化することを求めています。

また、貴社は「誠実な企業活動により、くらしの安心を支えます」「多様な人々との協働により、社会に貢献します」（経営理念）「安全の確保は、輸送の生命である」（安全方針）と強調しておられます。

しかし、無人駅の増大によって、「ホームから転落し、動けなくなり家族に携帯電話で連絡して助かった」（大阪長野線富田林西口駅）「駅で倒れ、次の列車の乗客に発見され、救急車で運ばれた」（奈良生駒線勢野北口駅）など命にかかわる危険や、「女性ひとりでホームで待つのが怖い」「酔っ払いに絡まれた」など、防犯上の問題もうまれています。

無人化は、バリアフリー化に逆行するばかりではなく、高齢者・障がい者などにとっては、新たなバリアをつくることとなります。

「券売機が1台しかないので、不具合で混乱し、切符が購入できず、乗り遅れた」「インターホンの利用方法がわからなかった」「インターホンで問い合わせたが、応答がなかった」「自動改札機のトラブルで、入ることができなかった」など、利便性も損なわれています。

貴社は、無人化駅の基準を一日乗降客「3000人以下」とされていますが、「3000人」の基準は、あくまでもバリアフリー実施目標の基準であり、無人化の基準ではありません。個々の駅の役割や、実態に即して決められるべきです。

また、「経営状況の厳しさがあり、将来にわたって鉄道事業を健全に運営するため」を無人化の理由にされていますが、貴社の決算資料によると健全な鉄道経営は維持されています。「安全・安心のさらなる強化と地域貢献」と述べておられますように、利用者の安全と利便を最優先にされるよう求めます。

要望事項

一、無人化駅に駅員を配置してください。

- ①乗降客が少なくても近鉄の駅が大きな役割を果たしている地域が多数あります。この地域にとっては、唯一の移動手段であり、住み続けることの保障でもあります。「乗降客3000人の基準」で無人化するのではなく、個々の駅の実情にあわせて駅員を配置するようにしてください。
- ②時間帯によって駅員がいない駅についても、通勤・通学の時間帯、観光客が増大する時間帯など、乗降客が多いときに駅員を配置してください。
- ③インターホンなど、遠隔装置についての設備の拡充、管理駅での機敏な対応ができる体制を確立してください。
- ④現在、スロープやエレベーターが設置されている駅についても、予約がなければ利用できなくなっています。管理駅から駅員が到着するまでに30分以上の時間がかかることもあります。すべての駅での駅員の配置こそ、最良のバリアフリー化です。この観点でも、駅員の配置をしてください。
- ⑤時間帯によって無人になる駅にも、終日無人駅のようなわかりやすい表示をしてください。

二、バリアフリーの完全実施をしてください。

- ①国は「5000人以上の駅」について、バリアフリー化実施は9割と言っていますが、「スロープの角度が急で怖い」「エレベーターが設置されていない」などバリアフリーとは言いがたい実態があります。スロープの改善、エレベーターの設置などを行ってください。
- ②車いす利用者から、「連絡用のインターホンなどが高すぎて届かない」「使い方がわかりにくいなど」の声が出ています。また、視力障がい者からは、「インターホンの設置箇所もわからない。音声での案内がない」、聴覚障がい者からは「点字の案内看板表示してほ

しい」などの声があります。安心して利用しやすいように改善してください。

- ③転落時の待避場所の設置、ホームでの列車との段差やすきまをなくす安全対策を強化してください。

三、踏切・危険箇所における安全対策について

- ①踏切拡幅、歩道の設置など、自治体からの改良の要望が出されていますが、遅々として進まない状況があります。この間、死亡事故も起こっています。踏切の幅を広げる、歩道を設置するなど安心して渡れる踏切に改善をしてください。
- ② 奈良線枚岡駅などでは、特急などの通過の際、「手すりにつかまらなければ飛ばされそうなホーム幅しかない」「巻き込まれそうになった」などの苦情があります。ホームがカーブしている駅、狭い駅などの特急・急行などの通過にさいして、スピード制限を厳守してください。

四、地域住民・自治体との協議を実施してください。

- ①2013 年に貴社が無人化駅を増加させた際、奈良県や大阪府松原市をはじめ、いくつかの地方自治体や議会から中止をもとめる要望がだされました。

地方自治体や地域住民との協議は、交通事業をになう企業の責務でもあります。国は、昨年一部改正された『地域公共交通活性化再生法』で、「地方公共団体は、地域公共交通網形成計画の作成及び実施に関し必要な協議を行うための協議会を組織することができます」としています。協議会設置については、誠実に対応していただきたい。

- ②利用者の要望に対しては誠実に対応し、交渉や要請には快く応じていただきたい。